

学校法人桜花学園 建学の精神

Philosophy behind the Foundation

心豊かで、気品に富み、洗練された近代女性の育成

Instilling a sense of grace and refinement in the heart and minds of modern women

創設者の大溪 専（おおたに もはら）先生は、宗教家であり、社会活動家であり、そして教育者でした。先生は人格教育を重んじ、日常生活の中での実践を何より大切にする方でした。

そして宗教精神に基づく女子教育を創設の理念として、その具体化を建学の精神に盛り込みました。

その意味するところは極めて哲学的であり、時代の変化に左右されることのない、永遠の目標を内容としており、現在の各学校で受け継がれています。

Mohara Ohtani, the founder of the school, was a man of religion, a social activist and an educator. He valued humane education and treasured the practice in everyday life. He aimed a school for girls' education based on religious spirit and materialized it as the Philosophy behind the Foundation of the school.

It's meaning is extremely philosophical. It indicates an eternal aim which is unaffected by the change of time, and it is inherited in every schools run by Ohkagakuen.

名古屋短期大学の建学の精神・教育目的と学習成果・3つの方針

1. 建学の精神

心豊かで、気品に富み、洗練された近代女性の育成

2. 教育目的 (名古屋短期大学 学則 第1章 第1条)

本学は、学校教育法(昭和22年法律第26号)に従い、学校法人桜花学園の設置目的である信念ある女性を育成することを基本目的として、深く専門の学術技能を教授研究し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するとともに、職業または实际生活に必要な能力を育成することを主な目的とする。

3. 学習成果 (Learning Outcomes:LO)

L01. 社会で必要とされる知識や技能を身につけ、自らの人生を切り開くことができる

L02. 自らの能力を活かし、社会に貢献しようと努力することができる

L03. 他者とともに協働しながら問題解決のために考え、意見を述べ、行動することができる

※学習成果とは、学生が獲得すべきもの(何ができるようになるか)を定義したものです。

4. 3つの方針

(1) 学位授与の方針 (Diploma Policy:DP)

名古屋短期大学は各学科が定める必要単位を修得することを通して、次の能力を備えていると認定した学生に学位を授与する。

DP1. 建学の精神と本学の教育目的に則り、卒業後も自己を成長させようと努力することができる。

DP2. 社会生活に必要とされる教養と専門的な技術・知識を身につけている。

DP3. 自らの持てる力を活かし社会に貢献しようとするすることができる。

(2) 教育課程編成・実施の方針 (Curriculum Policy:CP)

名古屋短期大学は、学生が学位授与の方針に示されている要件を達成できるように、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。

CP1. 社会生活を営むうえで必要となる広い教養を身につけるために教養科目を設置する。

CP2. 各学科の教育目的・目標に則した専門的な技術・知識を身につけるために専門科目を設置する。

CP3. 聴講により知識や技能を身につける講義のほか、身につけた知識や技能を活かし、自主的に学ぶ力や協働性などを身につけるための演習、自ら身につけた力を実践的なものとするための実習、研修をおく。また選択科目のほか、それぞれの学科の学修において特に重要とされる科目を必修科目とする。

(3) 入学者受け入れの方針 (Admission Policy:AP)

名古屋短期大学は本学への入学者に対し次の力や資質を備えていることを期待する。

AP1. 本学の建学の精神および教育理念に共感する人

AP2. 本学での学修に必要な基礎学力(知識・思考力・判断力・表現力)を持つ人

AP3. 自主的に学ぼうとする高い意欲を持ち、専門知識を身につける努力を惜しまない人

以上のような学生を受け入れるために、各種入試方法を設定し、入学者選抜のための多様な評価を行う。

各科の学習成果と3つの方針

1. 保育科

(1) 学習成果

- 〔知識・技能〕 保育と保育者の本質について理解する。(HDP1)
 - ・多様な子どもについて理解している。
 - ・保育実践に関する知識・技術を獲得している。
 - ・保育者としての職業倫理について理解している。
- 〔行動力〕 豊かな人間性を備え、自己実現や社会貢献に向けて主体的に行動する。(HDP2)
 - ・先を見通して行動できる。
 - ・社会の状況を深く見つめ、対応策を考えることができる。
 - ・社会の発展に貢献しようとする使命感や責任感を持っている。
- 〔省察力〕 自らの保育実践を振り返り、改善しようと努力する。(HDP3)
 - ・自己を認識して振り返ることができる。
 - ・課題を発見し、自ら問題提起して解決のために行動できる。
- 〔協働性〕 多様な課題の解決に向けて、社会の中でさまざまな人と連携、協働する。(HDP4)
 - ・周囲の人と情報交換し、多様なニーズの理解に努める。
 - ・さまざまな立場の人と連携、協働することができる。

(2) 学位授与の方針

保育科は、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献できる有為な保育者を育成することを教育目的としている。この目的を踏まえて編成された教育課程を通じて所定の単位を取得し、以下に示す「知識・技術」、「行動力」、「省察力」、「協働力」を身につけた者に短期大学士（保育学）の学位を授与する。

- HDP1. 〔知識・技能〕 保育と保育者の本質について理解する。
HDP2. 〔行動力〕 豊かな人間性を備え、自己実現や社会貢献に向けて主体的に行動する。
HDP3. 〔省察力〕 自らの保育実践を振り返り、改善しようと努力する。
HDP4. 〔協働性〕 多様な課題の解決に向けて、社会の中でさまざまな人と連携、協働する。

(3) 教育課程編成・実施の方針

(3)-1 教育課程編成方針

保育科では、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力を身につけた保育者を育てるために、基礎教育科目及び専門教育科目を体系的に編成する。

- HCP1-1. 基礎教育科目群においては、豊かな人間性と社会生活に必要とされる知識・技能を身につけるために、健康的な生活と将来を見通し、グローバル社会に対応できる知識や語学、ICTの基礎を修得できるようにする。
HCP1-2. 専門科目群においては、幼稚園教諭2種免許状及び保育士資格を取得するための科目を適切に配置し、保育と保育者の本質について理解できるようにする。
HCP1-3. 専門科目群においては、変化し続ける現代社会における多様な保育ニーズに対応する能力を身につけるための独自科目を設ける。

(3)-2 教育課程実施方針

- HCP2-1. 主体的な行動力や協働性の育成のため、「保育基礎演習」・「保育実践演習」などの科目において、少人数で実践的な教育を実施する。

HCP2-2. 実習指導の科目や保育内容指導法の科目、実技系の科目等において、保育実践力を身につけるため、アクティブラーニングの様々な方法を用いた教育を実施する。

(4) 入学者受け入れの方針

保育科は、保育に関する教育・研究を通して保育者をめざす学生の高度な専門性の修得と自己実現を支援し、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる有為な保育者を養成するために、次のような入学者を求める。

- HAP1. 保育者になりたいという意志が明確で、そのために真剣に努力できる人
- HAP2. 保育者に求められる適性を備えており、それをさらに伸ばそうとする意欲がある人
- HAP3. 子どもとその福祉に幅広い関心を持ち、そのための学びと実践の意志をもっている人

2. 英語コミュニケーション学科

(1) 学習成果

1. [英語によるコミュニケーション力] 英語による 4 技能をバランスよく身につけ、それを用いて様々な文化背景を持つ人々とコミュニケーションが取れる。(EDP1)
2. [思考力・判断力・表現力] 国際社会・地域社会で活躍するための知識と思考力、判断力、表現力を獲得している。(EDP2)
3. [問題発見・解決力] 現代社会において様々な課題に対応するため、自ら社会における様々な問題を発見し、それに対して解決案を提示できる。(EDP3)
4. [他者との協働力] 様々な人々と協働し、社会において主体的に活動できる。(EDP4)

(2) 学位授与の方針

英語コミュニケーション学科は、英語によるコミュニケーション能力を持ちグローバル化した社会で活躍できる人間を育成することを教育目的としている。この目的を踏まえて編成された教育課程を通じて所定の単位を取得し、以下に示す「英語コミュニケーション力」、「思考力・判断力・表現力」、「問題発見・解決力」、「他者との協働力」を身につけた者に短期大学士（英語）の学位を授与する。

- EDP1. [英語によるコミュニケーション力] 英語による 4 技能をバランスよく身につけ、それを用いて様々な文化背景を持つ人々とコミュニケーションが取れる。
- EDP2. [思考力・判断力・表現力] 国際社会・地域社会で活躍するための知識と思考力、判断力、表現力を獲得している。
- EDP3. [問題発見・解決力] 現代社会において様々な課題に対応するため、自ら社会における様々な問題を発見し、それに対して解決案を提示できる。
- EDP4. [他者との協働力] 様々な人々と協働し、社会において主体的に活動できる。

(3) 教育課程編成・実施の方針

(3)-1 教育課程編成方針

英語コミュニケーション学科では、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる 4 つの能力を育てるため、基礎教育科目及び専門教育科目を体系的に編成する。

- ECP1-1. 基礎教育科目群を学修することにより、短期大学における専門教育科目を学ぶ上で大切な学力の基礎を培う。

ECP1-2. 専門教育科目群のうち、英語に関する演習と実習科目（海外留学プログラム）では、資格取得や卒業後の進路選択に活かすことができる英語力を習得し、異文化理解によりグローバル化した社会で多様な人々と協働する力を養う。

ECP1-3. 専門教育科目群のうち、幅広い教養を身につけるための専門科目では、建学の精神にある「信念ある女性」となるために、様々な分野で国際社会や地域に貢献し、活躍するための基礎的な知識と能力を身につける。

ECP1-4. 国内・海外でのインターンシップ科目を通し、他科目にて学習した内容を学外にて活かし、また実践的な知識と技能を得る。

(3)-2 教育課程実施方針

ECP2-1. 2年間の学修を通じて、確かな英語コミュニケーション力を身につけ、それを運用するための幅広い教養と問題意識を持つ人材を社会に送り出すために、短期大学生としての学びの基礎から実践的教育プログラムまで、様々なカリキュラムとプロジェクトを実施する。

(4) 入学者受け入れの方針

英語コミュニケーション学科は、確かな英語力を身につけ、幅広い教養と豊かな感性を持って国際社会と地域に貢献できる人材を育成している。英語で「話す・聞く・読む・書く」の4技能をバランスよく身につけるとともに、コミュニケーションに必要な幅広い知識を備えた問題意識の高い人材の養成のために、次のような入学者を求める。

EAP1. 英語によるコミュニケーションに興味・関心があり自ら学ぼうとする学習意欲のある人

EAP2. 英語圏の生活・文化・交流について、幅広い興味と関心を持っている人

EAP3. 異文化圏の人々との関わりを通じて自己の世界を広げたいと思っている人

EAP4. 現代のグローバル経済・社会において自己の能力を発揮したいと思っている人

EAP5. 英語を教えることに興味・関心がある人

3. 現代教養学科

(1) 学習成果

1. 他の人々と協働しながら、社会に貢献することができる。(GDP1)
2. 身につけた幅広い知識と技能を活かし、自己を成長させることができる。(GDP2)
3. 状況を把握し、課題を解決するために自主的、主体的に取り組むことができる。(GDP3・GDP4)

(2) 学位授与の方針

現代教養学科は、現代を創造的に生き抜くための英知を持った人間を育成することを教育目的としている。この目的を踏まえて編成された教育課程を通じて所定の単位を取得し、以下に示す力を修得した学生に対し、時代や社会環境の変化に対して的確に対応し、自立した人間であると同時に社会と調和しながら、自信を持って自己実現を続けていくことができる人間であることを認定し、短期大学士（現代教養）の学位を授与する。

GDP1. [コミュニケーション力] 他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていく。

GDP2. [専門知識] 幅広い分野にわたる知識を身につけ、人間、社会、自然に対する理解を深める。

GDP3. [思考力] 幅広い知識に基づき、より広い視野に立って、物事を考えていくことができる。

GDP4. [行動力] 問題に向かって主体的に取り組むことができると同時に、仲間と協働しながら目的に向かって着実に努力を続けられる。

(3) 教育課程編成・実施の方針

(3)-1 教育課程編成方針

現代教養学科では、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力を学修し、「現代を創造的に生き抜く英知」を育てるために、教育課程を体系的に編成する。

GCP1-1. 1年基礎教養科目群においては、多様な人間関係の中で自らの考えをまとめ、発信するとともに、協働の中で社会をよりよく発展させていく力を身につけるために、「キャリアデザインⅠ」、「教養演習Ⅰ」などの科目を設ける。

GCP1-2. 専門教養科目群においては、様々な観点から、現代社会に対する理解を深め、自己を創造的に実現するために、幅広い専門知識や技術が身につくように、12のユニットを設ける。

GCP1-3. 2年基礎教養科目群においては、大きく変貌を遂げる現代社会を力強く生き抜くために、社会との関係の中で問題をとらえ、解決に向けて探究していくことができるように、「キャリアデザインⅡ」、「教養演習Ⅱ」、「卒業研究」などの科目を設ける。

GCP1-4. 学外で多くの人々と交流しながら主体的に自らの人間的な可能性を切り開くとともに、実践的な知識や技能、経験を得るために、各種の「インターンシップ」や「国内研修」、「海外研修」などの学外研修を設ける。

(3)-2 教育課程実施方針

全ての科目において、ICTやアクティブラーニング等の様々な方法を用い、以下のような特色のある教育を実施する。

GCP2-1. 1年基礎教養科目は、少人数になるようにクラス編成を工夫し、授業を実施する。

GCP2-2. 12のユニットの中から、学生が自らの関心によって4つのユニットと履修コースを選択できるようにする。

GCP2-3. 2年基礎教養科目は、少人数になるようにクラス編成を工夫し、学内にとどまらず学外においても授業を実施する。

GCP2-4. 学外研修は、研修内容に関する学生の要望を教員が聞き取るなどの個別相談を実施する。

(4) 入学者受け入れの方針

現代教養学科は、多様化する時代の中で、「自分らしく生きていく力」を身につける学科です。働くために必要な知識や資格を身につけ、生涯を通じて自分の力を発揮できる能力を養うことを目的に、次のような入学者を求める。

GAP1. 自分の中に眠っている可能性を見つけ出したい人

GAP2. 新しいこと、いろいろなことにチャレンジしたい人

GAP3. しっかりと就職して働きたい人

GAP4. 充実した2年間を送りたい人

GAP5. 自ら考え、行動することをめざす人

名古屋短期大学専攻科の学習成果と3つの方針

1. 保育専攻

(1) 学習成果

1. [知識・技能] 教育・保育・福祉・子育て支援の本質について、保育実践に基づく知識と技能を有している。(HSDP1)
 - ・教育・保育・福祉・子育て支援についての専門的な知識・技術を有している。
 - ・理論に裏打ちされた保育実践について学び続ける姿勢が培われている。
2. [行動力] 自己を客観的に評価し、課題解決に向けて前向きな態度で行動することができる。(HSDP2)
 - ・時代の社会的ニーズをとらえ、国内外の保育の課題に関心を持ち、課題解決に向けて主体的に議論することができる。
 - ・保育者として社会的使命感を持ち続け、問題提起しながら子どもの最善の利益について考えることができる。
3. [省察力] 自分や自分たちの保育実践を俯瞰的に見つめ、省察・改善に努めることができる。(HSDP3)
 - ・自分の能力を最大限に発揮できるように、保育実践の振り返りを積み重ねていくことができる。
4. [協働性] グローバルな視野を持ち、社会的ニーズを積極的にとらえながら、さまざまな分野・立場の人と連携協働して社会に貢献することができる。(HSDP4)
 - ・グローバルな視野を持ち、さまざまな分野の人と連携、協働することができる。

(2) 修了認定の方針

専攻科保育専攻は、保育に関する一層の専門的力量を養い、時代の要請に応えられる保育者の養成並びに幼児教育の有資格者に対するリカレント教育を行うことを教育目的としている。この目的を踏まえて編成された教育課程を通じて所定の単位を取得し、以下に示す「知識・技術」、「行動力」、「省察力」、「協働力」を身につけた者に修了を認定する。さらに、所定の単位を取得し、大学改革支援・学位授与機構の審査を経ることで学士(教育学)の学位が授与される。

- HSDP1. [知識・技能] 教育・保育・福祉・子育て支援の本質について、保育実践に基づく知識と技能を有している。
- HSDP2. [行動力] 自己を客観的に評価し、課題解決に向けて前向きな態度で行動することができる。
- HSDP3. [省察力] 自分や自分たちの保育実践を俯瞰的に見つめ、省察・改善に努めることができる。
- HSDP4. [協働性] グローバルな視野を持ち、社会的ニーズを積極的にとらえながら、さまざまな分野・立場の人と連携協働して社会に貢献することができる。

(3) 教育課程編成・実施の方針

(3)-1 教育課程編成方針

専攻科保育専攻では、高度な保育の専門性を身につけた保育者を育てるために必要な専門科目を体系的に編成する。また、深い教養と総合的な判断力を培うために、基礎科目を置く。

- HSCP1-1. 専攻科入学前に修得した専門的内容をさらに深めるための科目を配置する。
- HSCP1-2. 幼稚園教諭1種免許状を取得するための科目を適切に配置し、高度な専門的知識・技能を身につけられるようにする。

HSCP1-3. 基礎科目では、豊かな人間性と社会生活に必要な知識・技能をさらに磨き、職業人としてグローバル社会に対応するための知識・技能を深めることができるようにする。

(3)-2 教育課程実施方針

HSCP2-1. 自己実現に向けた能動的かつ自己啓発的な学びを深められるように、「専攻科基礎演習」、「学修総まとめの基礎」、「学修総まとめ」等において、少人数で理論的かつ実践的な教育を実施する。

HSCP2-2. 高い実践力を身につけ、職業観を確立することを目的として、「保育特別実習」では保育現場での継続的な実践教育を実施する。また、他の科目においても、保育現場を訪問したり、子どもと保護者を授業に迎えたりすることにより、多様な保育実践の機会を設ける。

HSCP2-3. 「情報処理特演」及び他の科目において積極的に ICT を活用し、情報活用能力の幅を広げる。

(4) 入学者受け入れの方針

専攻科保育専攻は、保育に関する教育・研究を通して保育者をめざす学生の高度な専門性の修得と自己実現を支援し、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献し、社会に出た後も持続的に学び続け、リカレント教育を含めて自身の能力や可能性を広げることができる保育者を養成するために、次のような入学者を求める。

HSAP1. 理論と実践を探究する高度な専門性を身につけた保育者になりたいという強い意志を持ち、学士（教育学）の学位取得を目指す人

HSAP2. 保育者としての社会的使命を理解し、問題提起しながら子どもの最善の利益のために努力し続けようとする人

HSAP3. 急速に進むグローバル化や高度情報化に柔軟に対応し、社会的・国際的に活躍しようとする人

2. 英語専攻

(1) 学習成果

1. 〔実践的英語力〕国際社会で活躍するために必要な英語力を身につけ、また自らの専門分野について特に優れた英語力をもって理解し表現することができる。(ESDP1)
2. 〔国際社会において必要な教養〕英米文学、英語学とその応用分野、世界の各地域の国や機関と歴史文化、ならびに国際関係の各分野の専門的な知識を偏りなく身につけている。(ESDP2)
3. 〔問題発見・解決力・表現力・他者との協働力〕問題を調査し考究した上で結論を出す能力、およびそれを発表する能力を身につけ、社会において多様な人々と主体的に協働する態度や力を獲得している。(ESDP3)

(2) 修了認定の方針

専攻科英語専攻では、短期大学相当の学びを基盤とした上で、所定の教育課程を履修し、以下に示す「実践的英語力」、「国際社会において必要な教養」、「問題発見・解決力・表現力・他者との協働力」を身につけた者に修了を認定する。さらに所定の単位を修得し、大学改革支援・学位授与機構の審査を経ることで学士（英語・英米文学）の学位が授与される。

- ESDP1. [実践的英語力] 国際社会で活躍するために必要な英語力を身につけ、また自らの専門分野について特に優れた英語力をもって理解し表現することができる。
- ESDP2. [国際社会において必要な教養] 英米文学、英語学とその応用分野、世界の各地域の国や機関と歴史文化、ならびに国際関係の各分野の専門的な知識を偏りなく身につけている。
- ESDP3. [問題発見・解決力・表現力・他者との協働能力] 問題を調査し考究した上で結論を出す能力、およびそれを発表する能力を身につけ、社会において多様な人々と主体的に協働する態度や力を獲得している。

(3) 教育課程編成・実施の方針

(3)-1 教育課程編成方針

専攻科英語専攻では、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる3つの能力を身につけさせるため、教養教育科目及び専門教育科目を体系的に編成する。

- ESCP1. 英語の各技能を高め、グローバル社会への参画に直結する実践的な英語力と、人間育成に資する専門的な英語力を修得する。
- ESCP2. 英語学、英米文学の専門・応用分野、ならびに世界の各地域の歴史・文化、国際関係の各専門分野への知識を深め、人間理解の基本的な力を身につける。
- ESCP3. 学位授与機構の認定科目を配当し、学位申請および取得に必要な英語の四技能と、その英語能力をふまえた言語、文学、文化の諸相を偏りなく修得することを通し学士力を身につける。
- ESCP4. 講義科目を通して知識の修得をし、演習科目を通して分野に応じた調査力、分野の知識を基盤に考察して結論を出す力、発表や発信を通じて他者に働きかける力を身につける。

(3)-2 教育課程実施方針

ECP2-1. 2年間の学修を通じて、実用的な英語運用能力を備え、国際社会で他者と協働して活躍できる人材を育成するために、専攻科生としての学びの基礎から実践的教育プログラムまで、様々なカリキュラムとプロジェクトを実施する。

(4) 入学者受け入れの方針

専攻科英語専攻は、短期大学士の学位を保有する者を対象に、実用的な英語運用能力を身につけ、国際社会で他者と協働して活躍できる人材を育成している。英語運用能力を支える教養としての英語圏の文学や、英語の言語としての特徴を積極的に学ぶとともに、それらを通して思考力、判断力、表現力を獲得できる人材を育成するために、次のような入学者を求める。

- ESAP1. 国際化する社会で他者と協働して活躍するための実践的英語力を学ぶ意欲のある人
- ESAP2. 英語圏の言語・文学・地域社会・文化の各専門・応用分野に高い関心を持つ人
- ESAP3. 英語学・英米文学および関連分野における調査・思考・判断・発信の各能力を高める意欲のある人
- ESAP4. 異文化圏の人々との関わりを通じて視野を広げ、現代のグローバル経済・社会において多様な人々と協働しながら自己の能力を発揮したいと思っている人
- ESAP5. 短期大学士の学位を保有し、本学科の学修に必要な基礎的な学力・技能とコミュニケーション能力がある人

【学科ディプロマポリシーと科目の対応表】

DPと各授業科目との関係（各科目はどの学DPと関連が深いか）につきましては、学科ごとのページに記載してあります。